東海道中

# 猿蓑毛

六編

上

へ遠13
1164
14

特
1164
14

二見の滝図

滑稽五十三駅六篇巻之上

川崎の遍照寺といへるは新義真言の
陽山といへる寺より出でるなり此所十二ケ所の金
丸子新宿より高雲寺をすくへて文化般若寺の
花岳院より弥勒の風俗のおもてに縁の○○和
慈雲の光と象は余光を見たり弟子の詩人
えんめい蝦蟇居士よりふたつの詩の
此人へのうの上よりのとおつれば○よりとまる

家とに御師の名を板まうきつけ開立而といへる
看板作葦のごとく。おほ稽をもうひ川かけて待候
人とゐて弛ちがひて往東旅人の法師にいてるを乗ふ
とゐん人て。一人の侍御はゝ東にちがひ[illegible]モにあるさ
がこれいつまへ。おうしをごぎりまれる[illegible]志れこゝの[illegible]
さ[illegible]へまんり[illegible]ヒ[illegible]イヤ[illegible]ハどれ[illegible]ハ[illegible]
吏[illegible]さ[illegible]ハ[illegible]義[illegible]とやとにどこしと志やいる[illegible]その
義[illegible]といふハ[illegible]大坂[illegible]城[illegible]京ハ[illegible]条[illegible]江戸

ハふ[illegible]や町かしにかゝれて永らく法師判[illegible]あげ[illegible]
[illegible]まゝる[illegible]かゝるものハ[illegible]あつてらいる
[illegible]これとぬうすとひいぱてくぞ[illegible]忍[illegible]いおとじ
やるハ[illegible]ちと休んでいてういる[illegible]こゝらハきて[illegible]人而
ごゝる法師の[illegible]度とゐん人て用立而とかんて
ある[illegible]おきやアうれハ[illegible]三人ともあるちや[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]やまむ[illegible]
[illegible]ごぎれよみせハ[illegible]の町の通
筋[illegible]ソンひ[illegible]ん町をやアとこさアよいときア

つくとやうも縁くハりおまんのめのなみだ。かなしさど
じやなぞれでよるさとの。りんまのされなまゐど
の若様と。ひとりでおちおやつぶ手府かまひ
まんしき聟ぶ。おちのゆくまぎれこんで。ござ
んしのじやな「るるよどさゆう。そんなんうろたへ
のゆく法師となれ。どこでおさん母となて「十二才ま
りのらをとまれがしろぞるな「めんくの田くれ
師とのをまんとらそとるおろろのなコリやつまり

さなハづらぶしとおやつのなうかんむのこんぐ
まさ様をもひもそしまよふてな「テうけるひ
なさけじやのてんどやのそなをのひ「イヤつる
くまおれらてまめへきちのぶひく様。かしき
り陰謀しよふかぐへろぐまれてあなあんまり
母をくしやなるな。はたつ子ぞへかれひとう
てまた様らけて見せよ。とくきのまちれバそ（まだきまもさうぶしそ）
「十二才まのがおひとりでうなな。おうやでなさく

おの
山邑

あちこわさめちくふて 咽(のど)をつめて死(ん)ごうちがある
がめしそれじやるんかいる 孫 「いかさ母 桐うらぶらさ
がつてよふるうちであつて トヌ 三だんさ紀人 母紀 あるうちのかごまて 「モシ
桐うらおちこうちハかめんじやごぎんやせんか トとんざことをいふ
此うちの女 あうとこへて 「イヽヱナコトヒ」がうちハかりとかしこ夜でつい
しかてるんあげてかいてこれかませんかいる 孫 「ハア
外(あか)まへござりやせんか 女 「ソリやかまいきうちがひじ
やあろぞいる山うらかちこ内じやかませんかいる

それじやと桐(おい)の山の与ひらの小屋が此方の
風で谷へふれかとされてとふてでかまれが
る大かこそれじやあろいる 孫 「イヤそれでも稼く
がコリヤアこアかしこめんぞ何ぞうかしがさろそろ
コうこなくる所で めしもこもうしなかしこよふぞ
コろちもされうらこぶねあらんで めりくが
つかりとくてひれ申してとふぞてふくのましそ下
さり やせト 此度されまつらどうけるてんしゆきのぐく
そふまこぞこぶんとさけてかくようをいそ

「サヤ」ゑくあがらんせいれたいかまいはとこそ思ね
さんすのどやいる 楽気(こんぐう)どや あろがおひとりつ 但(こぐ)
しハ おつまぞも おまさとりハ 孫 「さ申うさ 乃連(まちづれ)
ともに三人の所ゆらハそのつれにもぐれてこ
んにゆきてこさあざんやせん 孫 「イヤそのおふたり
のおふたりのおつまハ おひとりハ おほたらしいが
今おひとりハ 京のお人で 同のうへに此くらひ
る 癪痛(こんこぶ)のかるおかたどや おまさんかいる 孫 「さ申そ

それじやとあちの内におとゝ成りなされたさか
いまぐにおまいさ成のおむかひを出しまして
ゆいる 孫 「そりやあんとうにかヤレくうれしや
そしておめ人の所ハ何やといひ申を 孫 「アレ法らん
なきれ 拭れ(かけらぐ)に 後屋とかんて おまほがる 孫 「ホン三
それくらなかくぶらさりれて 申うぐとおめいたが
その後やよそふしてはまの申れいどこにおやす
孫 「ソレおくあつまさ成がおゆ出てといふていりんせ ト此こ(せきこ)

よりかくかう出る度つれ
のかくかくものさんで来る「コリヤよふごんしてさてあしてこう
うち殺さんしてでおろこちらも悪しくうらねね
まふてこちやるんまいのてあくおくん 係「これはおやすこ
ちより四十七 ト きぐまかくへかしとがこものとゆへは悪どくこのきゃ
こうまついて法師の方へかりしが係ばしつんくざるゆ
へおしゆんだかりまて まゆちるへいかくきく合てもつこうはせん
うこるくその法師の方と出ようけこもおてどるくうまてこまうんや
のかしやへと思らんといひたることもやうちのてるれは大かさたつねてく
ろでおろとさてこそこの所まと思りてまちうけしるり係らは太
々こうのかどまちがひたるいちぶしたうとものかたり大こひ「まおく
とるり けるゆくはうまひをまびまゆりはをそりていうる
おこたんは別条るくてゆてたいく 係「いやゆふこんだ



同まおつこといふはおれかるのよ 附まかこ四ひさん
そのおこてまつちもひとつ 四ひてくんなせん
おめへ 下湯まもいけてきなせん 係「そんなうそふ
よ ト係ばらは四まいりまゆくへ
わはひゆをそりかりて
ことはいふ 髪四ひさんかいう
かかこはいふ 係をつめていけてくんなうんこうこ
つちのかうの髪はこれ出て 髪かあつまうかく
てとんこきのきうねへおこ度つれこそして女の髪
もこうせへまたきくいけて うんのまゝ 係へ 気子の

まけかりこうてうかへこれはよりくアいこゝろもちこ
をしらめるかしこ
「ナレトそれで。よこざりさのよかるゝ「おんまりとうそれ
てくひがまいらぬようでゝト　あかりくるゝ思ひ「サアお
なかさ髪なされませんかいる「イヤどうぶかへ
こうどくして。風てもひいてようぶこ月ちハ
アアかしこのてましやせう「さよなこうきれん
よふト出てけけうち女猪とまちいてめいくへなそれ上方
あのハ先刻よりねころひいてうしうあこうなそ
「トレ飯くとういる「今日ハ志けぞお着かるゝ

おませんといる「これハ店ちそうサアハどふぞ
「孫さんこ月ちが若いどこまある「アアけ男ハ
ソレ猪ハ法外でおるアアと月せくんなどふもう月
むくてがるらねく「なせるらねくヨやくまめくの
顔ハどふしこ　目がひれ法月て猟つれをうる
よふぞぜ「おんまり髪ゆひめがごうぎは稼と
法めていやアカ月こアイきくびをいこうすくびは
めりくとうこの毛がぬけるようぶ「ソレおまいの